



第1回

古典派の時代の楽器で描く世界

約200年前の
ピアノで聴く、
様々な国の
情緒あふれる音楽

©Taira Tairadate

川口成彦

フォルテピアノリサイタルシリーズ 2026

～万国博覧会の思い出～



Anton
Walter
c.1795

John
Broadwood
& Sons
1814

使用楽器

A. ワルター

1795年頃(復元楽器 製作:太田垣至)

J. ブロードウッド & サンズ
(スクエアピアノ)

1814年(オリジナル楽器 修復:太田垣至)

- [スペイン] ロペス: スペインのファンダンゴによる変奏曲
タレガ: アルハンブラの思い出 (編曲: 川口成彦)
- [ノルウェー] グリーグ: ノルウェー農民の舞曲「スロツテル」op.72 より
リヤン・ソルビ
- [中国] 王建中: 「雲南省の民謡」より
- [トルコ] モーツァルト: ピアノソナタ第11番 イ長調 (トルコ行進曲付き) ほか

アイルランド・オーストリア・ドイツ・フランス・イギリス・ハンガリー・ポーランド全11カ国にちなんだプログラムを演奏予定。

●本編終了後、ソヘグム(朝鮮半島の民族楽器)をご紹介しますコラボレーション演奏がごさいます。[演奏: 梁 聖晞]

2026

12.19

土 15:00開演
(14:30開場)

フェニーチェ堺 小ホール Sakai Performing Arts Center

全席指定(税込) 一般:4,000円/U-25(25歳以下):1,500円 ※未就学児入場不可

一般発売 8月29日(土)10:00

チケット予約 堺市文化振興財団チケットセンター 0570-08-0089 またはフェニーチェ堺のホームページ、各プレイガイド ほか

お問い合わせ フェニーチェ堺 072-223-1000 (9:00~20:00) [休館日] 第1・3月曜(祝日の場合は翌平日)および年末年始 ※この番号ではチケットのご予約は承っておりません。

※U-25…公演当日の年齢が25歳以下の方が対象。ご入場の際、年齢が確認できる証明書をご提示ください。
※やむを得ない事情により公演内容が変更となる場合があります。※車いす席は堺市文化振興財団チケットセンターでご予約ください。

主催:フェニーチェ堺(公益財団法人堺市文化振興財団)

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会 フォルテピアノ協力:太田垣 至

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

詳細はこちら



2025年の大阪万博で、私はポーランドのソプラノ歌手アルドナ・バルツニクさんとショパンの歌曲をポーランドパピリオンや野外ステージで演奏しました。フェニーチェ堺でも昔歌って下さったアルドナさん。万博でポーランドの文化を再び日本の皆さんに味わって頂けたこと、嬉しそうでした。音楽を通じてポーランドの文化を味わって下さった多くの人々。あの中の誰かが、もしかしたら将来ポーランド語を話しているかもしれない。文化のキャッチボールが作る未来の可能性を妄想しては、万博の熱気に酔いしれました。

未知なる世界、価値観に触れることは人々の人生のエネルギーやインスピレーションとなり得るでしょう。自分が自分らしくいられる場所が、今の日常とはかけ離れた場所にあるということも人によってはあるかもしれません。また世界の広さを知ること、自分が今生きる「日常」を改めて好きになったりすることもあつてしょう。

音楽は実態の無い抽象的なもの。それゆえに想像力と共に私たちを「別の場所」に連れて行ってくれます。現実逃避にはうってつけ。そんな音楽の力を借りて、この度のフェニーチェ堺のリサイタルシリーズでは、様々な国々に束の間の旅をしたいと思います。さらにはフォルテピアノ(昔のピアノ)の音色と共に、情緒溢れる過去にも立ち返ります。

1937年のパリ万博をきっかけにカタルーニャの作曲家フェデリコ・モンポウが《Souvenirs de l'exposition》という作品を書きましたが、今回のシリーズのタイトルはそれに因んで「万国博覧会の思い出」です。様々な国の文化で賑わった万博へのオマージュとしての「音楽で綴る世界」を是非お楽しみください。そして「国」というものを超えた、様々な民族、様々な人間の心の世界に思いを馳せたいと思います。民族楽器が登場するゲストステージもお聴き逃しなく！



川口成彦 フォルテピアノ

1989年盛岡生まれ、横浜で育つ。第1回ショパン国際ピリオド楽器コンクール第2位、ブルージュ国際古楽コンクール最高位。フィレンツェ五月音楽祭や「ショパンと彼のヨーロッパ」(ワルシャワ)、モンテヴェルディ音楽祭(クレモナ)をはじめとした音楽祭に出演。協奏曲では18世紀オーケストラ。{oh!} オルケストラ・ヒストリチナなど、室内楽においてはマリオ・ブルネロ、アリーナ・イブラギモヴァ率いるキアロスクーロ・カルテットなどと共演している。東京藝術大学楽理科卒業後、同大学およびアムステルダム音楽院の古楽科修士課程修了。フォルテピアノを小倉貴久子、リチャード・エガールの各氏に師事。第46回日本ショパン協会賞、第31回日本製鉄音楽賞 フレッシュアーティスト賞受賞。またスペイン音楽をこよなく愛し、自主レーベルMUSISによるCD『ゴヤの生きたスペインより』や自主公演「スペイン音楽の森」などのプロジェクトも展開中。2027年1月にはロドリゴの『英雄的協奏曲』を大阪交響楽団(指揮:小林資典)と共演予定。今年はイギリスのレーベル Signum Recordsより『ベートーヴェンとの旅路』が発売。

使用楽器

A.ワルター | 1795年頃(復元楽器 製作:太田垣至)

Anton Walter

J.ブロードウッド&サンズ(スクエアピアノ) |

1814年(オリジナル楽器 修復:太田垣至)

John Broadwood & Sons

本日のコンサートでは18世紀初頭のフォルテピアノ製作の中心地であったウィーンとイギリスの代表的な製作者であり、モーツァルト、ベートーヴェンなど著名な作曲家にも愛されたアントン・ワルターのレプリカとJ.ブロードウッド&サンズのオリジナル楽器が用いられる。

当時のウィーンのフォルテピアノは跳ね上げ式と呼ばれるアクションが用いられ、軽やかなタッチ、音色が特徴。一方イギリスでは現代のピアノに繋がる力強い音色を生み出す、突き上げ式アクションが用いられ、対照的な特徴を持つ。

A.ワルターは太田垣至が2023年にニュルンベルク楽器博物館所蔵の1795年製のオリジナル楽器を調査し、一から製作したレプリカを使用。FF-gの63鍵。

J.ブロードウッド&サンズは1814年製のオリジナル楽器をイギリスのフィンチコックス博物館より持ち帰り、演奏可能に修復したものを使用。当時家庭音楽用に人気だったスクエアピアノと呼ばれるモデル。FF-cの68鍵。製造番号18910。(太田垣至)

次回公演

2027.3.20[土]

—第2回—

ロマン派と現代の
楽器で描く世界



ソヘグム演奏
リャン ソンヒ
梁 聖晞

チケット予約

フェニーチェ堺 WEB [サカイメイト チケット](#) [検索](#)

TEL **堺市文化振興財団チケットセンター 0570-08-0089** (10:00~18:00)

※一部携帯・CATV 接続電話・IP 電話からはご利用いただけません。

窓口 **フェニーチェ堺チケット窓口** (9:00~20:00)

※フェニーチェ堺での窓口販売は8月31日(月)より、残席がある場合のみ。

※堺市立梅文化会館窓口でも購入できます。

プレイガイド チケットぴあ <https://t.pia.jp/> [Pコード 334-500]

ローソンチケット <https://l-tike.com/> [Lコード 54789]

e+(イープラス) <https://eplus.jp/sf/venice-sacay>



フェニーチェ堺(堺市民芸術文化ホール)
〒590-0061 堺市堺区翁橋町 2-1-1
南海高野線 なんば〜堺東 約10分
堺東駅から徒歩8分